

活動の場所

ＩＣＩ総合センター ＩＣＩラボ
(茨城県取手市寺原)



活動目的

- ・約50年後を見据えた、生物多様性を生み出す持続可能な自然環境を作ります。
- ・都市部における自然共生の実現を目指しています。

活動内容

茨城県取手市寺原に位置する技術研究所 ICI ラボは、郊外と都心の生きもののネットワークにおいて重要な立地条件にあると考えています。ここ ICI ラボが生物多様性に資するような「自然環境保全と創出の核となる場所」を目指し、既存樹林の維持と草地再生と、新たに造成した池の水辺環境を含めた敷地全体をビオトープと見立てた「ランドスケープ計画」に基づき整備しています。

【ランドスケープ計画】

市街地と自然の調和を目指した本事業は、自然な樹形を維持し、生長を制限しない植栽管理に努めています。コナラ、クスギ、ケヤキを中心に、オオシマザクラやヤマザクラ、イロハモミジなど季節の移ろいを感じられる在来種を主体としながら、アラカシなどの常緑広葉樹を計画的に配置するなど、多様な生物が利用できるよう樹林の階層構造を意識して中低木や地被類も植栽しています。これにより、飛翔昆虫類が当緑地と周辺の利根川や小貝川とエコジカル・ネットワークを形成することに繋がり、地域の生物多様性の保全に資すると考えています。

また、在来種のチガヤを主体とした在来低草本群落による法面や屋外実験場周辺の緑化、周辺の樹林の表土を保存し撒きだす他、キンランなどの希少種を保護する役割を果たすコナラを中心とした既存林はそのままの形で保全管理するなど、希少種の保護にも取り組んでいます。

水辺の整備では、エコトーン（水際）を形成する植生帯の多様性を確保するために多種の水生植物を植栽することでトンボや野鳥などの多様な生物が利用できる環境再生を実現しています。



多様な環境が再生された外構

敷地内で生息する生きものたち(一部)

【生態系サービス】

当区域は都市のヒートアイランドを緩和する気候調整機能や火災延焼を防ぐ防災機能などの「調整サービス」、指標種が生息しうるような「生息・生育地サービス」、緑豊かな外構植栽が利用する人々に憩いと安らぎの空間を提供する「文化的サービス」を有しています。

【地域との共生】

秘匿性の高い研究所という特性により、生物多様性のかく乱リスクを低減する一方で、地域の皆さまと自然を享受できるよう、寺原駅外構部・隣接部にも生物多様性に配慮した植栽を行い、駅を利用する住民の方にも四季が感じられる場所を目指しています。また、敷地内に移築された取手市登録有形文化財である「旧渡辺甚吉邸」の見学会を催すなど、区域内を管理しながらも、一般の皆さまにも、緑豊かな外構植栽、希少生物に触れる機会を提供しています。

PRしたいポイント

- ・敷地全体をビオトープと見立てたランドスケープ計画による地域の生態系ネットワークの実現
- ・地域調達の在来種を主体に、階層構造を意識した種を計画的に配置するなど、多様性を生む植栽計画
- ・水際のエコトーンを形成する植生帯の多様性確保のための、多種の水生植物を用いた植栽計画
- ・ハビタット評点と生物多様性評点の相関性検証により独自に構築した評価システム「HEALIN」による生物多様性保全プログラムの遂行
- ・セキュリティ管理により外来種流入リスクを低減しながら、地域の皆さまが自然と触れ合える機会も提供
- ・施設管理を担うグループ会社との連携により区域内の外来種の侵入にも速やかに対応

活動効果、今後の展開 等

- ・生物多様性価値が向上した取り組みを評価する「JHEP 認証制度」にて「AAA 評価」を継続（公益財団法人日本生態系協会発行 | 2023年10月1日）
- ・保全された生物多様性により、地域の皆さまと生態系サービスを享受
- ・自然共生サイト認定制度への登録と、ICI ラボで培われたノウハウを活かしたお客様への付加価値提案